

# 「災害は忘れたころにやってくる!」

～チリ地震津波から1年が経過～

昨年2月28日のチリ地震津波から1年が経過しました。当日は28,800世帯に避難指示が出され、避難所も73カ所開設しました。幸いにも人的被害は発生しませんでした。水産関係では甚大な被害が発生しています。



## 宮城県の第3次被害想定における津波到達時間

太平洋側沿岸

牡鹿地区	12～13分	震源地が近い場合は、これよりも早まる可能性があります。
雄勝地区	14～15分	
北上地区	18～19分	
河北地区	21分	
石巻地区(石巻湾沿岸に面している)	30分	

チリ地震津波は、遠地津波<sup>※</sup>でしたが、高い確率で発生が予測される宮城県沖地震では、宮城県の第3次被害想定によると、最も早く到達する太平洋沿岸の牡鹿地区で12～13分で到達すると予測されています。

そこで、一人一人の迅速な対応が求められますので、津波の特徴、避難の仕方などについて理解を深め、日ごろから家庭で話し合い、災害に備えましょう。

<sup>※</sup>日本から遠い所で発生した地震によるもので、津波の到達まで時間を要するものを言います。

## 津波の特徴

繰り返し襲ってくる

津波は繰り返し襲ってきます。第1波より、第2波、第3波の方が高いこともありま

す。警報や注意報が解除されるまで海岸には近づかないようにしましょう。

前触れなく襲ってくる

「津波が来る前には潮が引くから、引いたら逃げろ」とよく言われますが、これは間違いです。突然襲ってくる津波もありますので、引き潮がきていないからといって津波の様子を見に行ったりすることのないようにしましょう。



海岸付近で高くなる

津波は沖合いでは新幹線並み、沿岸部でも自動車並みの速さで来襲します。また、海岸の浅いところで急激に高くなり、特に、岬の先端やV字型の湾の奥などは局地的に高くなります。



すさまじい破壊力

通常の波の波長は、数mから数十mですが、津波は数kmから数十kmとなります。高さが低くても、車をさらっていくだけの破壊力があ



## 津波から逃れるために

直ちに避難！

強い地震（震度4以上）を感じたときまたは弱い地震であつても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときには、津波警報や避難指示を待たず、直ちに海から離れ、急いで高台や鉄筋コンクリートなど丈夫な建物の2階以上に避難しましょう。

日ごろから身近な避難場所を探しておくことも大切です。（必ず指定避難所に逃げなければならぬということではありません）津波警報や注意報を知った場合にも、避難指示を待たず直ちに避難しましょう。



ご近所にも声を掛けて！

お年寄りや身体の不自由な方もいます。向こう三軒両隣の地域のみなどで助け合うことが大切です。

情報に耳を！

津波は何回も押し寄せます。また、第2波、第3波以降が最も高い場合もあります。避難先では、ラジオなどで津波情報を確認することが大切です。



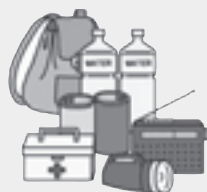
## 日ごろからの備えを！

非常用持ち出し品を用意

チリ地震津波時もそうですが、津波は、発生すると、おさまるまで長時間かかります。非常用持ち出し品を用意し、いざという時に持ち出せるようにしておくことが大切です。

### 非常用持ち出し品

食料品 飲料水 懐中電灯 携帯ラジオ  
衣服・下着類  
現金・貴重品 救急医療品  
ロープ ろうそく（マッチ・ライター）  
その他必要な物



※非常用持ち出し品で保存期限のあるものは、定期的に取り替えるようにしましょう

### 津波対策

市では、チリ地震津波後、対応策について検証しています。

これまでの検証結果から、次の対策を実施します。

- 防災行政無線広報
  - ・災害情報テレホンサービス、メールサービスの運用開始
- 避難所における情報取得
  - ・全避難所へのラジオの配備および学校避難所へのテレビ視聴設備の設置
  - ・主要な避難所への災害時特設公衆電話の設置
- 物資輸送・備蓄
  - ・孤立の恐れがある半島部などへの非常食、携帯浄水器の配備



市では、各家庭に「ハザードマップ」を配付しています。ハザードマップには津波の浸水予想域だけでなく、避難の心得や避難所についても記載してありますので確認しておくことが大切です。

予測されている宮城県沖地震では、津波到達まで12分、30分と想定されており、市民の皆さんへの津波警報や避難指示などが間に合わない場合も考えられます。

「自らの命は自らが守る」という観点に立つて、自主的に避難することが最も大切です。チリ地震津波の教訓を忘れずに行動しましょう。

【問】 防災対策課

（内線4156）

「自らの命は  
自らが守る」